

製品名: JIP-3 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12837**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	170kDa

抗原情報

遺伝子名	MAPK8IP3
別名	MAPK8IP3; JIP3; KIAA1066; C-Jun-amino-terminal kinase-interacting protein 3; JIP-3; JNK-interacting protein 3; JNK MAP kinase scaffold protein 3; Mitogen-activated protein kinase 8-interacting protein 3
遺伝子 ID	23162.0
SwissProt ID	Q9UPT6
免疫原	抗血清はヒト JIP3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 621-670

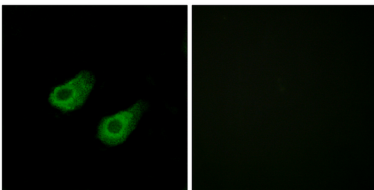
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、キネシンIと軸索カーゴの機能的相互作用に必要なショウジョウバエ *syd* 遺伝子産物と相同性を有する。マウスにおける類似遺伝子の研究から、このタンパク質は JNK シグナル伝達経路の多数のタンパク質キナーゼと相互作用し、その活性を調節することで、神経細胞において足場タンパク質として機能する可能性が示唆された。この遺伝子の *C. elegans* における対応遺伝子は、おそらく JNK シグナル伝達とキネシン 1 輸送を統合することでシナプス小胞輸送を調節することが分かっている。この遺伝子の選択的スプライシングを受けた転写バリエントがいくつか報告されているが、これらのバリエントの全長はまだ決定されていないものもある。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]機能: 足場タンパク質の JNK 相互作用タンパク質 (JIP) グループは、MAPK カスケードの特定の構成要素を凝集させて機能的な JNK シグナル伝達モジュールを形成することで、JNK シグナル伝達を選択的に媒介する。JNK シグナル伝達成分およびモータータンパク質との相互作用を介して、小胞輸送の調節因子として機能する可能性がある。PTM: DNA 損傷時に、おそらく ATM または ATR によってリン酸化される。類似性: JIP スキャフォールドファミリーに属する。サブユニット: ホモオリゴマーまたはヘテロオリゴマー複合体を形成する。MAPK8IP3 の中央領域は MAPK8IP2 の C 末端と相互作用するが、MAPK8IP1 の C 末端とは相互作用しない。JNK シグナル伝達経路の特定の成分、すなわち MAPK8、MAPK9、および MAPK10 は N 末端領域に、MAP2K4 および MAP2K7 は中央領域に、MAP3K11 は C 末端領域に結合し、TPR モチーフを含むキネシン軽鎖 KLC1 の C 末端に結合する。組み立てられた MAPK8IP1 スキャフォールド複合体は、キネシンの積荷として、必要な細胞内位置まで輸送される。

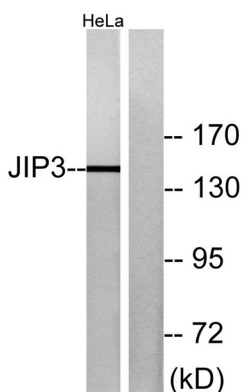
研究分野

MAPK_ERK_成長;MAPK_G_タンパク質;

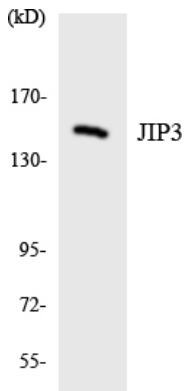
画像データ



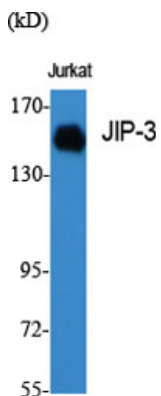
JIP3 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



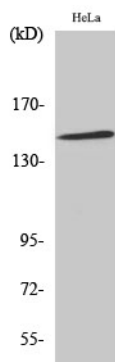
JIP3 抗体を用いた HeLa 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



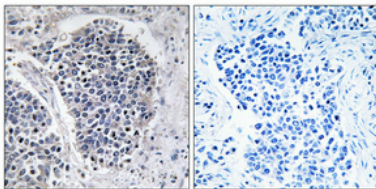
JIP3 抗体を使用した HepG2 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



JIP-3 ポリクローナル抗体を 1: 1000 に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット分析した。



JIP-3 ポリクローナル抗体 (1: 1000 希釈) を用いた HeLa 細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。